



【学校教育目標】

笑顔いっぱい

Treasure Island



～気づき、考え、行動する 高島っ子を育てる～

長崎市立高島小中学校 校長 宇土 衛

子供を ほめて伸ばす！ は正しい！？

ここ数年、教育現場で「ほめて伸ばす」というフレーズが目立つようになりました。これは相手に期待すると、その人の成績や業績が向上する「ピグマリオン効果」や、相手にとって望ましい評価を与えることで学習効果が高まると言われる「ポジティブ・フィードバック」と言われる臨床心理学の手法だそうです。確かに、幼少期に自尊感情を高めて、成長を促すには大変有効で、必要なことです。私たち教師も一人一人の子供たちの良い点を見付け、ほめることでより良い成長を促しています。

ただし、気を付けなければならないのは、「ほめて育てる」とは「叱ってはならない」とは違う！ということです。子供の成長には、「ほめること」と「叱ること」の両方が必要です。皆さんが分かっているように、ほめることだけで健全に育つ子はいません。

もちろん体罰や心身ともにひどい苦痛を与えるような虐待などは論外です。そうではなく、適切な厳しさ、叱責、指導の言葉などは、発達段階やその時の状況に応じて、欠かすことができないことと考えます。大切なのは、その「ほめ方」と「叱り方」です。

そこで今号は【ほめ方のポイント】についてお伝えしたいと思います。

★「結果」だけではなく、その努力の「過程」をほめる

例えば「漢字のテストで100点取ってすごいね」ではなく「100点を取るために毎日漢字を練習したもんね。その努力が実ったね。」という感じです。1番になったとか、合格したとかという「結果」だけをほめ

る対象にすると、結果のためには何をしてもいいという考えに結びついてしまいます。また、結果が出なければほめることができなくなります。努力の過程に目を向ければ、たとえ結果が悪くなくても、「その努力はきっとあなたの力になっている」という励ましの言葉に繋がっていきます。

★「ありのまま」をほめるのではなく、「よりよく変容したこと」をほめること

「そのままでいいんだよ。ありのままの自分でいてね。もう頑張らなくていいよ。」という言葉は、かなり頑張ってすり減ってしまい、これ以上無理をさせると危険だという人にかかる言葉でしょう。子供に必要なのは、「ありのまま」より「向上的変容」の姿をこそほめるべきです。目標をもたせ、適度な負荷を乗り越えて成長した時こそ、大いにほめましょう。



★具体的にほめること

「よく頑張ったね。」「えらいね。」「よりも、細かいところまで丁寧に描いて色が付いてあるね。よく頑張ったね。」とか「自分から挨拶ができてすごいね。」の方が、よく見てもらえていると感じて喜びは増し、次への布石にもなります。

★将来につながるほめ方をすること

「苦手な算数をここまで頑張れたから、これからも苦手なものに挑戦する心が育ったね。」とか「一緒に泣いたんだね。でも友達の痛みに寄り添える力があるって、大人になってもとても大切なことなんだよ。」などです。

子供たちの成長を願い、

大いにほめましょう！

